

編輯室より

編輯室では、一月號の賞讃の辭が切りに爆發してゐる。目出したし々々々々。来る七月には、今一度、讀者諸氏をビツクリさせるつもりで、チャンと御膳立てが出来てゐる。其の證據に、多士濟々たる編輯同人の顔振れを見るべし。それに、本號から我等の抱影氏が献身的に其の麗筆を振つて、毎號の天象欄に、又、其の他、時々は大ものを書いて下さることになつた。萬歳々々。稻葉君は、何だか詩みたいなものを書き出した。こんなものを御書きになる少尉殿とは！

しかし、一寸、白狀致す。一月號には、あの美しい表紙を始め、所々に誤植があつて、同人同志では大に御目玉を頂戴してゐる始末です。あの表紙の“November”を見給へ！又、「編輯室より」の御丁寧な“次號には……”を見給へ！何れ皆、他愛も無い誤りであるので、もつと此の種の誤植が多くなつたつて、愛嬌を増すばかりなのだが——しかし、一應、叱られて置くべきものなり。

「インチを廢止すべし」本號卷頭言にある通りだ。昭和の世の中に、今なほ「インチ」などを使つてゐるのは誰だ！おほかた米國あたりで生れて來た非國民だらう。我が天界では、數年前から實行してゐる通り、斷然として「インチ」を排斥する！「インチ」を書いた原稿だの、「インチ」を書いた質問は、テンデ受け附けないから、御承知を願ひたい。

會員倍加運動を忘れずに、

何とせよ、2000人になるまでは、一步も引かず、新會員を勧誘せられたし！！